植物と人々の博物館メールマガジン

第 115 号　2024 年 9 月 6 日発行

**～～～

外フィールド調査ノートをデータベース化して公開しました。なお、個人情報は削除しています。誤変換などは、もう一度、採集改訂する機会に修正します。

退職後 10 年計画で進めてきた自選集全 6 巻は未完成で、やっとインドの核心地域の佳境に入りました。また、50 年の研究成果の概要をまとめとして栽培穀物の起原、栽培化過程、および伝播におけるインド亜大陸の重要な歴史的役割を解き明かし、その修正仮設を英文で要約（第 5 巻“Essentials of Ethnobotany”）するところまでは、あと数年頑張ります。とても面白いですが、1000 ピースのジグゾーパズルのようで、とても複雑で難しいです。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を始めました。自選集 VI『随筆集―生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

3）公式 HP：植物と人々の博物館 http://www.ppmusee.org/に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 https://www.milletimplic.net/も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまで集成されており、とてもありがたいです。

4）森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。日本語の書籍は大方整理を終えたいです。
https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html

5）植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館のへのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2.自然文化誌研究会　（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

〇予定の詳細は下記ホーム・ページでご覧ください。 INCH まつりや真冬のキャンプを企画しています。

〇報告

1）自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。

https://www.milletimplic.net/archives/historyinch2025.html

2）来年は創立 50 周年ですから、運営委員会で話し合いが始まりました（7 月 23 日）。『50 年史』をまとめるとか、50 年間に関わった人々と思い出を語り合う会とか、企画が出始めました。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何千人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日で過ごせたらよいかと思います。

９月 5 日に、代表幹事はじめ 8 名出席して、準備会的な話し合いをしました。詳細は未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025 年 10 月初旬、1 泊 2 日
場所：東京学芸大学彩色園など
内容：写真展、談話会など

3. 環境学習市民連合大学　Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NPO4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html

○ 報告

1）雑穀栽培見本園

①今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しています。収穫や網の片付けなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。キビの収穫は済みました。防雀網撤去は 10 月 20 日（日）を予定しています。ご協力ください。宮本茶園へのご連絡、かさねてご参加をお待ちしています。　kwangjuu1980@yahoo.co.jp

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。 簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法　雑穀 ～とりあえずの栽培法（milletimplic.net）
farmsklec8p.pdf（milletimplic.net）
加工法　雑穀類の加工方法（milletimplic.net）

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

2）第 35 回環境教育学会大会で一般発表（8 月 30 日）と自主課題研究（9 月 1 日）を台風 10 号接近の中で、下記の通り実施しました。200 名の参加予定が、欠席が多く、よほど寂しく見えました。

自然文化誌研究会のメンバーの協力を得て、この学会の準備および初代事務局長として、編集子はこの学会を創りました。もちろん、高名な先達沼田眞さんはじめ、多くの方々との共同作業でもありました。今回は、学会創業者の直言として、10 年振りに 1 年だけ会員に戻って、次の通り、一般口頭発表と自主課題研究を行いました。

○一般発表：木俣美樹男 環境学習による心の構造と機能の文化的進化

15 名ほどの参加で、講演者の欠席もあり、質疑の多くの時間が取れて、熱心な学生と友人たちの新しい出会いを繋ぐこともできてよかったです。卒業生ら 10 名ほどから、挨拶されました。

○自主課題研究：希望を創る環境学習を求めて

人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学として ELF 環境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望、学問について話し合いたい。若い方たちと直接話して、反応を見たいなどと思ったのですが、参加者はまったくありませんでした。12 年前には 24 名の参加者がありました。学会の未来にエールを贈るつもりが、残念ながら大方の人が帰ってしまいました。主催者 5 人で話し合いました。この成果は学会誌に研究論文として投稿する予定です。

資料集

https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html

＊発表スライド、学会の歴史と環境科、環境教育推進法、環境学習原論資料　などを含む

～～～

～～～

宮本茶園の雑穀見本園、台風第 10 号の被害は少なくて済みました。良かったです。